

2025年度 公開水産科学実習

暖流系と寒流系の海と河川に隣接する3つの北大のフィールド施設で、全国の大学生に向けた多様な実習を展開しています。

バイオリギング実習

(水圏フィールド環境・生物モニタリング実習)

開講：R7年 9月8-12日 (4泊5日)

〆切：R7年 7月11日



水産の資源動態を研究する上で、海中での生物の移動の把握は重要な問題です。本実習では、生体に電子機器を装着してデータを記録するバイオリギングなど最新の計測技術を用い、水中生物の行動記録し、解析する技術の取得を指します。

対象：学部1～4年生・大学院生 定員：10名
参加費（食費等）：10,000円程度

夏季フィールド科学実習

(亜寒帯の沿岸生物を対象とした環境科学実習)

開講：R7年 9月1-5日 (4泊5日)

〆切：R7年 7月11日

亜寒帯海域である北海道では、様々な生物が相互に作用しあって独自の海洋生態系を構成しています。本実習では、海藻やプランクトン、底生動物といった海洋生物の採集・観察や、生態や生活史に関する講義等を通じて海洋生物の多様性の実態を理解します。



対象：学部1～4年生・大学院生 定員：8名
参加費（食費等）：10,000円程度

複数実習への参加も大歓迎！
※単位の複数取得はできません

生理生態学実習

(亜寒帯魚類を対象とした増殖実習)

開講：R8年 3月3-6日 (3泊4日)

〆切：R7年 12月12日

食料としての動物性タンパク質資源の必要性から魚類の養殖技術は近年急速に発達しています。北海道ではサケ・マス類の増殖がその基礎的な位置にあります。本実習ではサケ・マス等の魚類を用いて養殖による生物生産、放流による増殖の形態を学びます。



対象：学部1～4年生・大学院生 定員：6名
参加費（食費等）：10,000円程度

海棲哺乳類実習

(人間活動と水圏生物の共生に関する実習)

開講：R8年 2月24-27日 (3泊4日)

〆切：R7年 12月12日

北海道の鯨類を対象とし、食性解析や解剖など、年によって様々な手法を学びます。講義と実習を通して、海洋生態系と人間活動の関わりについて考えるとともに、フィールド調査の基礎についても学ぶことができます。



対象：学部1～4年生・大学院生 定員：6名
参加費（食費等）：10,000円程度

春季フィールド科学実習

(亜寒帯の沿岸生物を対象とした水産科学実習)

開講：R8年 3月9-13日 (4泊5日)

〆切：R7年 12月12日

亜寒帯海域である北海道では、様々な生物が相互に作用しあって独自の海洋生態系を構成しています。本実習では、海藻やプランクトンといった海洋生物の採集・観察や、生態や生活史に関する講義等を通じて海洋生物の多様性の実態を理解します。



対象：学部1～4年生・大学院生 定員：8名
参加費（食費等）：10,000円程度

写真：忍路臨海実験所

受講生の声

実習内容はもちろん、参加された学生の皆様の意識が高くとても良い刺激を頂きました。考察が学生ごとに違うことも勉強になりました。(バイオリギング実習)

実習の中で野外採集や実験など体験型の学びが多く、とても楽しかったです。先生やTAの方も本当に優しく、実習がより充実したものになりました。

(春季フィールド科学実習)

日々研究している先生から直接普段の研究活動について伺えて非常に充実した日々だった。なかなか教科書や説明書に書かれていること以上の最新の情報は日常では得られない。自分の大学内だけでは得られる情報も限られてしまうから、このような公開実習が今後も増えてほしい。(海棲哺乳類実習)

今後の研究に生かせる事も多く大変有意義でした。他大学の学生との交流では、2年、3年生にも関わらず、積極的に実習に取り組む姿勢や持っている知識の幅広さなど沢山の刺激を頂きました。

(夏季フィールド科学実習)

魚類に関する知識がないという不安は実習初日にはありましたが、先生との距離も近く、分からないことがあればすぐに聞くことができ、終始不安を感じず楽しく学ぶことができました。

(生理生態学実習)

よくある質問

Q. 旅費が高く、参加を迷っています。

北海道では、年々航空券代やホテル代が高騰しています。少しでも受講生の皆様の経済的負担を減らすために、前後泊の事前予約サービスや内々定時点での通知など、様々な取り組みを行っています。詳しくは各実習の要項をご確認ください。

Q. 水産や魚のことを何も知りません。事前に勉強しておかなくてもいいですか？

当拠点の実習はいずれも、フィールドでの新鮮な驚きを体験してもらうことが目的です。背景となる理論についても先生方が講義で十分に説明しますので、特に予め何かを勉強していく必要はありません。分野外、文系の学生の皆様の応募も大歓迎です！

Q. 実習は何年生向けですか？院生でも参加できますか？

院生の方も参加可能ですが、当拠点の実習は主に学部生を対象としています。なお、学部1年生と院生には単位が出ませんので、ご注意ください。

食糧基地 北海道の水圏環境を学ぶ体験型共同利用教育拠点

— 特色ある水圏生態系の理解に基づく産業グローバルな視野の醸成 —

当拠点について

当拠点は臼尻水産実験所・七飯淡水実験所・忍路臨海実験所の3施設と生態系変動解析分野が運営しています。寒流と暖流が混じりあい、淡水から海水まで多種多様な生物が生息する北海道の豊かな水圏をフィールドとする施設がネットワークを形成することで、一水系のみではとらえることができない日本の水圏生物の見方や、他の海域にはない北方域特有の生物生産を体感できます。

本拠点に所属する教員は、プランクトン、藻類、魚類、海棲哺乳類などの多様な生物を対象としています。講義、野外採集、実験解析などの多様な手法を用いて、北海道の自然資源の保全と活用、生態現象を計測する先端技術の開発に力を注ぐとともに、北海道のフィールド体験で得た「気づき」を活かしてこれまでとは異なる視点から自然や産業を捉え、地域や世界の諸問題の解決に貢献する力を育む教育を目指しています。

忍路臨海実験所

〒048-2561 北海道小樽市忍路町1-460
TEL/FAX: 0134-64-2303
E-mail: oshoro@fsc.hokudai.ac.jp

臼尻水産実験所

〒041-1613 北海道函館市臼尻町152
TEL/FAX: 0138-25-3237
E-mail: usujiri@fsc.hokudai.ac.jp

七飯淡水実験所

〒041-1105 北海道亀田郡七飯町桜町2-9-1
TEL/FAX: 0138-65-2344
E-mail: nanae@fsc.hokudai.ac.jp

教育拠点に関する連絡先（北海道大学札幌キャンパス内）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
学術協力担当
TEL : 011-706-3452 FAX : 011-706-4930
ホームページ : <http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten>



HPはこちら



施設紹介

忍路臨海実験所

北海道大学 札幌キャンパス

七飯淡水実験所

北海道大学 函館キャンパス

臼尻水産実験所